別記様式第6

論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　　学　術　　） Doctor of Philosophy	氏 名 (Candidate Name)	黄　博
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)
中国におけるサブカルチャー：四坑文化研究

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)	教授	長坂　格
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	柳瀬　善治
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	張　慶在
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	李　郁恵
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	川口　隆行

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

「四坑文化」とは、漢服、ロリータ、JK、コスプレという四つの仮装ジャンルを包括する、現代中国における主要なサブカルチャーである。これまでの四坑文化に関する研究は、四つの仮装ジャンルを別個に扱う傾向があった。それに対して本論文では、この四坑文化を、ジャンルの異なるコミュニティの実践が交差し、融合する状況の下で形成された、仮装をめぐる複雑かつ独特なファンダム文化と包括的に捉え、分析を行った。本論文の目的は、インタビュー調査および参与観察にもとづき、四坑ファンたちの諸実践を、ファンダム研究やコスプレ研究の分析概念を援用し、さらに独自の概念を導入しながら記述分析することで、四坑文化の特徴を明らかにし、中国内外のサブカルチャー研究に実証的理論的に貢献することである。本論文で用いられる調査資料は、2022 年 2 月から 2023 年 8 月までの期間中に実施されたオンラインインタビューと、2023 年 4 月から同年 6 月にかけて実施された中国での参与観察および対面インタビューによって得られたものである。

論文は五章によって構成される。序論に当たる第一章では、四坑文化と調査の概要が述べられ、先行研究のレビューが行われている。ファンダム研究、コスプレ研究および中国の四坑文化についての研究の検討からは、四坑文化を包括的に捉え、四坑ファンたちによる越境的および多様な諸実践を、様々な分析概念を用いて多面的に考察するという研究の方向性が提示されている。

第二章では、四坑ファンたちによる特定のジャンルに固執しない越境的な仮装実践を、「クロスコミュニティ・コーディネート」という独自の概念を導入して記述考察し、異なるジャンルのコミュニティのファンによる実践が交差し、そして拡張するという四坑文化の特徴を明らかにした。第三章では、まず E. ウェンガーによる「軌道」の概念を用いて、四坑ファンとしての多方向的なアイデンティティ構築の過程を明らかにした。そのうえでファンたちの実践による自己呈示に着目し、二章で明らかにした、四坑文化が持つ拡張し続けるという特性が、ファンたちのアイデンティティ構築のあり方に広い可能性をもたらしていると論じた。第四章では、都市における四坑ファンたちの実践に焦点を当て、四坑ファンの実践が、ヨーロッパにおけるコスプレイヤーたちの実践と同様に、

都市空間に独自の意味を与える社会的抵抗行為として捉えられる一方で、特定の場所を持続的に流用することで、都市空間への微細な形での浸蝕を果たしているという点で独自性を持つと論じた。

結論に当たる第五章では、各章の論述内容をまとめたうえで、四坑ファンの越境的、混交的な実践形式を考察するために本論文で導入された「クロスコミュニティ・コーディネート」という概念が、他のファンダムの研究においても有効性を発揮しうること、また、本論文が四坑ファンのアイデンティティ構築を彼らのコミュニティの特性との関連で考察したように、ファンダム・コミュニティを多面的に分析することが重要性を持つことなどを指摘した。

以上の内容を持つ本論文は、現代中国における主要なサブカルチャーである四坑文化を包括的に捉え、調査にもとづきその特徴を明らかにしたこと、そして、ファンダム研究の様々な概念や実証的知見を参照し、さらに独自の概念を導入してその特徴を多面的に考察することで、今後の中国の四坑文化研究、あるいはファンダム研究一般に対して新たな分析概念と分析の方向性を提示したことの二点において、サブカルチャー研究に独自の貢献を行ったと高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和　６年　２月　５日

備考　要旨は，A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size,2pages (about 500 words).)